

新着案内

町田の文学

第38号 2018.5.22 発行 町田市民文学館ことばらんど

江戸中・後期の著名俳人が名を連ねる

『五十嵐祇室・梅夫・浜藻 来簡集』刊行

江戸期町田ゆかりの
俳諧師たち

五十嵐梅夫・浜藻は、いまから二〇〇年ほど前に武蔵国多摩郡大谷村（現・町田市南大谷）にいた名主の父娘です。家業の関係で江戸大伝馬町にも家があり、俳諧（俳句や連句の総称）を能くして、小林一茶やその庇護者でもあった夏目成美、鈴木道彦といった当時著名な俳人たちとも親しく交友しました。梅夫・浜藻と一茶三人が巻いた連句作品や一茶が浜藻を詠んだ句も残されています。

五十嵐祇室・梅夫・浜藻 来簡集

— 附 五十嵐家三代（祇室・梅夫・浜藻）全句集及び年譜稿 —

五十嵐浜藻・梅夫研究会
町田市民文学館

五十嵐浜藻・梅夫研究会／編著 町田市民文学館／発行
一部四〇〇円 町田市民文学館にて販売中

五十嵐祇室・梅夫・浜藻 来簡集

梅夫・浜藻父娘は、文化三年（一八〇六）年から六年間にもわたり、遠く長崎まで俳諧行脚（各地の有力な俳人と連句を巻きながら旅すること）を行い、その成果を『八重山吹』『草神楽』の二冊の連句集として京都の書肆から刊行しています。中でも浜藻がまとめた『八重山吹』は、すべて女性のみによる江戸時代唯一の連句集として、近世俳諧史上でも貴重な資料とされています。

文学館では、古文書解説に精通された市民研究員の皆さんのご協力により、二〇一一年から五年をかけて、この二冊の連句集を現代の活字に直して『翻刻八重山吹』『翻刻草神楽』として刊行することができました。刊行に際して文章をお寄せいた

だいた作家の別所真紀子さんの『江戸おんな歳時記』（幻戯書房・二〇一五年）は、浜藻をはじめ江戸時代の市井の女性たちが残した句をテーマとして書かれたもので、第六七回読売文学賞を受賞されています。

今回文学館が刊行した標記の『五十嵐祇室・梅夫・浜藻 来簡集』は、祇室や梅夫・浜藻に宛てられた著名俳人からの書簡三五点を翻刻したものです。祇室とは、梅夫の父親でやはり俳諧を嗜んでいました。これらの書簡は、自由民権資料館に寄託されている五十嵐政孝家文書の中に現存するものです。

錚々たる書簡の差出人たち

書簡の差出人としては、加藤暁台（尾張徳川藩士）、夏目成美（江戸蔵前の札差）、鈴木道彦（陸奥国仙台藩士）、井上士朗（名古屋の医家、「尾張名古屋は士朗（城）で持つ」とうた

われた著名俳人）、奥村志宇（近江の女性俳人、『八重山吹』の序文作者）など、小林一茶こそありませんが、当代一流の宗匠格の俳人たちが名を連ねています。書簡からは、五十嵐家の人々が積極的に彼らと付き合い、熱心に俳諧を学ぼうとする姿や、句集発行などに関わり経済的な支援を依頼される姿、著名俳人の人脈を通じて全国の俳人とのネットワークを形成する姿などが垣間見え、当時の人々の息遣いが聞こえてくるようです。

また本書には、これまでの調査・研究の過程で新たに発見された句をまとめた「五十嵐家三代（祇室・梅夫・浜藻）全句集」と「年譜稿」も併せて収録されています。文学館のほか市内各図書館で借りることができますが、文学館や市政情報課にて一部四〇〇円でお求めいただくこともできます。

町田の隠れた文化史の一端を知ることのできる興味深い資料です。『翻刻八重山吹』『翻刻草神楽』と併せて一度手に取ってご覧ください。

新刊紹介

『バルタン星人を知っていますか？ テレビの青春、駆けだし日記』

飯島敏宏+千束北男／著 小学館 2017.7

飯島敏宏 (千束北男)

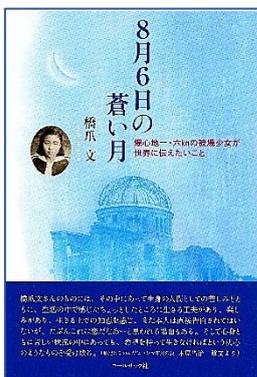
1932年生まれ。脚本家、映画・テレビのディレクター。町田市在住。

「ウルトラQ」「ウルトラマン」などの脚本・設定に関わった著者の自伝エッセイ。バルタン星人の名前に隠された意味などのほか、テレビの「青春時代」の興味深いエピソードが満載。ちなみに著者は、この本を文学館の閲覧室で書き上げたという。



『8月6日の蒼い月 爆心地一・六kmの被爆少女が世界に伝えたいこと』

橋爪文／著 コールサク社 2017.8



八月六日、被爆した少女は生死の間をさまよいい、壮絶な経験をしながらも生き抜いた。あの日、家族、友人、広島の人々はどう生き、どう亡くなっていったのか、克明な記録が綴られている。著者は現在、各地で若い人たちに原爆の恐ろしさを静かに語り、反核の輪を広げている。そしてフクシマを引きおこしてしまったこの国へ「伝えねばならない」という思いを強く持ち続け活動している。

橋爪文

1931年生まれ。14歳の時に被爆。日本ペンクラブ、日本詩人クラブ所属。詩集など著書多数。60歳を過ぎて英語留学。その後「反核・平和海外ひとり行脚」を始めた。町田市在住。

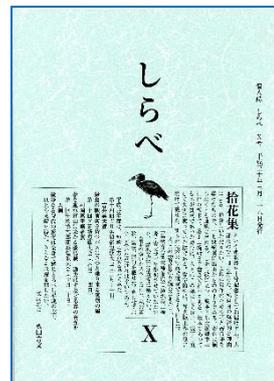
「個人誌 しらべ」IX号 X号

永田吉文／編集・発行
2018.3

連句、連歌の復興を目指し、作品、書評などを掲載。X号は「拾花集」という連歌書の翻刻。「号から文学館に所蔵されている。

永田吉文

短歌で吉井勇大賞(2017年)などを受賞。町田市在住。



新刊紹介

『ノンフィクション児童文学の力』

国松俊英／著 文溪堂 2017.12

国松俊英

日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会、宮沢賢治学会、日本野鳥の会会員。童話や児童小説のほか、ノンフィクション児童文学の著作多数。『トキよ未来へはばたけ』（くもん出版・2011年）で第7回福田清人賞受賞。町田市在住。

「ノンフィクション児童文学は、ほんとうのことを知りたいと思ひ、多くの知識を求めようとする子どもたちに、社会や人間の本質を伝える力を持つ文学である」（「はじめに」より）。多くの優れた作品が刊行されているにも関わらず、今まであまり注目されてこなかった分野に光を当てた、渾身の著作。



『古代地中海 夢の誘い』

加藤浩／著 ミカリノ出版 2018.3

古代地中海 夢の誘い

加藤 浩



紀元前三〇〇〇年ごろから、古代地中海を囲む国や地域に暮らした人々の英知に思いを馳せる現代人夫婦が、タイムスリップするという新しい歴史小説。著者はこれまでに『北京の風』（新聞編集センター・二〇一〇年）をはじめとする「定年夫婦留学記」などの著作もある。

加藤浩

1946年生まれ。化学会社退社後、2010年から文筆活動を始め、当館には5冊の著作の所蔵がある。町田市在住。

「ウィッチンケア」vol.9

多田洋一／制作責任 2018.4

町田が編集拠点の「インデイズ文芸創作誌」。一年に一冊のペースで発行されている。総勢三四人が創作、エッセイなどを執筆。「南伸坊さんと、竹村健一さんと、マクルーハンと。」（柳瀬博一）、「ゼロ年代からのまちの風景（パート1）」（開沼博）、「耳鳴り」（久保憲司）などが面白い。

多田洋一

編集者、作家。『小説*アンフェア the movie』（秦建日子原作映画のノベライズ・ワニブックス・2007）ほかノベライズ作品多数。町田市在住。



新刊紹介

マチネ
『イギリス風の朝』
ジャン＝ミッシェル・モルポア／著 思潮社 2018.3
有働薫／訳



詩集にしてリリズム論を展開するエッセイ集。原書は一九八二年刊。著者三五歳の作品。「散歩は旅行ほど雄弁ではない。散歩にはつぶやきだけで充分だし、散歩は小川に沿って歩くのをとても好む。(中略)散歩はまた沈黙と物語を愛する」(p.54)

開いたページから美しく、
楽しい言葉たちが立ち上がる。

ジャン＝ミッシェル・モルポア

1952年フランス生まれ。パリ第十大学教授、詩人、評論家、文学研究者。

有働薫

1939年生まれ。詩人、翻訳者。第5詩集『幻影の足』(思潮社・2010年)で第28回現代詩花椿賞受賞。町田市在住。

『明日への一步』
津村節子／著 河出書房新社 2018.4



二〇一一年から一八年にかけて書かれたエッセイをまとめた一冊。
収録された「苦難の出発」は一七年の当館展覧会「没後10年 編集者・谷田昌平と第三の新人たち展」図録に掲載された「谷田昌平氏への思い」を改題、転載したもの。

津村節子

1928年生まれ。小説家。53年小説家・吉村昭と結婚。65年「玩具」で芥川賞受賞。著書、受賞多数。町田ゆかりの作家、八木義徳とも交流があった。



童謡誕生100年
童謡とわらべ唄 —北原白秋から数田義雄へ—

展覧会開催中

2018年6月17日(日)まで

10:00~17:00

休館日 毎週月曜日と6/14(木)

入場無料

展示解説 6/5(火)、17(日)14:00~ 申込不要

町田市民文学館ことばらんど

ことばらんど お宝紹介 始まりました！

町田市民文学館では、2006年の開館以降、
町田ゆかりの作家の自筆原稿や旧蔵品、
絵本の原画などをはじめ
様々な文学資料を収集してきました。
こうした収蔵品の中から、市民の皆様
ぜひご覧いただきたい“お宝”を順次公開する
ミニ展示シリーズをサロンにて開始いたします。



お宝紹介スケジュール(予定)

4/13～6/24(展示中)

エッセイの名手・遠藤周作

6/26～8/26

青柳寺・八幡城太郎

豆本コレクション

8/28～10/21

森村誠一自筆原稿(仮題)

10/23～12/28

文豪たちの自筆原稿

～サンケイ新聞掲載原稿から

2019/1/4～3/17

街頭紙芝居

「町田の文学」第38号 2018年5月22日発行

編集・発行／町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 町田市原町田 4-16-17 TEL 042(739)3420

FAX 042(739)3421

★文学館公式ツイッター

Twitter@machida_kotoba



*この冊子は300部作成し、1部あたりの単価は184円です(職員の人件費を含みます)